

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 2 日 (2005.12.2)

【公表番号】特表 2001-526539(P2001-526539A)

【公表日】平成 13 年 12 月 18 日 (2001.12.18)

【出願番号】特願平 10-548892

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 38/46

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 K 16/28

C 1 2 N 9/48

C 1 2 P 21/08

//(A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 31:198)

(C 1 2 P 21/08

C 1 2 R 1:91)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 39/395 C

A 6 1 K 39/395 L

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 2 3

C 0 7 K 16/28

C 1 2 N 9/48

C 1 2 P 21/08

A 6 1 K 37/54

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 31:198

C 1 2 P 21/08

C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 5 月 6 日 (2005.5.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年 5月 6日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第548892号

2. 補正をする者

名 称 ゼネカ・リミテッド



3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区

ユアサハラ法律特許事務所

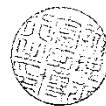
電 話 3270-6641~6

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



住 所 同 所

担当者氏名 (9601) 弁理士 富 田 博 行



4. 補正対象書類名

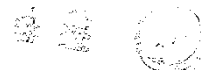
請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙の通り



(別紙)

請求の範囲

1. 哺乳動物宿主で薬剤として用いるための、細胞ターゲッティング部分および異種プロドラッグ活性化酵素をコードしている遺伝子構築物であって、該哺乳動物宿主の細胞内で該細胞ターゲッティング部分および異種プロドラッグ活性化酵素を結合体として発現することができ、そして該結合体は、該細胞を出た後、該細胞ターゲッティング部分によって認識される細胞表面抗原に選択的に局在化するように支配されている上記遺伝子構築物。
2. 細胞ターゲッティング部分が抗体である請求項1に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
3. 抗体が、抗体A5B7または806.077抗体より選択される抗CEA抗体である請求項2に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
4. 異種プロドラッグ活性化酵素がカルボキシペプチダーゼである請求項1～3のいずれかに記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
5. カルボキシペプチダーゼがCPG2である請求項4に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
6. CPG2が、哺乳動物細胞中の発現でグリコシル化を妨げるまたは減少させるように突然変異したポリペプチドグリコシル化部位を有する請求項5に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
7. 抗体-酵素CPG2結合体が、酵素を抗体のC末端にその重鎖または軽鎖によって融合することによって、発現された場合のコードされた結合体の二量体化が、CPG2上の二量体化ドメインによって起こりうる融合タンパク質である請求項5～6のいずれか1項に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。
8. 融合タンパク質を、抗体Fab重鎖のC末端をCPG2分子のN末端に結合してFab-CPG2を形成することによって形成し、それによって、発現された場合の2個のFab-CPG2分子がCPG2によって二量体化して(Fab-CPG2)₂結合体を形成している請求項7に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

9. カルボキシペプチダーゼが、[D 2 5 3 K] H C P B、[G 2 5 1 T, D 2 5 3 K] H C P Bまたは[A 2 4 8 S, G 2 5 1 T, D 2 5 3 K] H C P Bより選択される請求項4に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

10. 遺伝子構築物の発現を制御する遺伝子スイッチを含む制御因子およびプロモーターを含む転写調節配列を含む請求項1～9のいずれかに記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

11. 転写調節配列が、テトラサイクリンまたはエクジソンの存在によって調節される遺伝子スイッチ制御因子を含む請求項10に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

12. プロモーターが細胞種類に依存し、次のプロモーター：癌胎児性抗原(CEA)； α フェトプロテイン(AFP)；チロシンヒドロキシラーゼ；コリンアセチルトランスフェラーゼ；ニューロン特異的エノラーゼ；インスリン；グリア繊維酸性タンパク質；HER-2/neu；c-erbB2；およびN-mycより選択される請求項10または11に記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

13. 哺乳動物宿主へのデリバリーのためにアデノウイルス内にパッケージングされている請求項1～13のいずれかに記載の薬剤として用いるための遺伝子構築物。

14. 哺乳動物宿主での癌治療用薬剤の製造のための請求項1～12のいずれか1項に記載の遺伝子構築物の使用。

15. 哺乳動物宿主での使用に設計された対合二成分系であって、それら成分が、

(i) 請求項1～13のいずれか1項に記載の遺伝子構築物を含む第一成分および；

(ii) 該第一成分によってコードされた異種酵素によって細胞毒性薬に変換されうるプロドラッグを含む第二成分を含む上記対合二成分系。

16. 第一成分が、異種酵素CPG2をコードしている遺伝子を含み；そして第二成分プロドラッグが、N-(4-[N,N-ビス(2-ヨードエチル)アミ

ノ] -フェノキシカルボニル) -L-グルタミン酸、N-(4-[N, N-ビス(2-クロロエチル) アミノ] -フェノキシカルボニル) -L-グルタミン酸-γ-(3, 5-ジカルボキシ) アニリドまたはN-(4-[N, N-ビス(2-クロロエチル) アミノ] -フェノキシカルボニル) -L-グルタミン酸またはその薬学的に許容しうる塩より選択される請求項15に記載の対合二成分系。